

## 那珂市議会全員協議会記録

開催日時 令和2年11月11日（水）議員勉強会終了後

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席者 議長 福田耕四郎 副議長 木野 広宣  
議員 原田 陽子 議員 小泉 周司  
議員 石川 義光 議員 關 守  
議員 大和田和男 議員 富山 豪  
議員 花島 進 議員 寺門 厚  
議員 古川 洋一 議員 萩谷 俊行  
議員 勝村 晃夫 議員 笹島 猛  
議員 君嶋 寿男

欠席者 議員 小池 正夫 議員 武藤 博光

職務のため出席した者の職氏名

事務局長 渡邊 莊一 次 長 横山 明子  
次長補佐 大内 秀幸 次長補佐 三田寺裕臣

会議に付した事件

(1) 那珂市議会 I C T 導入について

… I C T 導入検討会で再度協議する

議事の経過概要 (出席者の発言は以下のとおり)

開会 (午後3時54分)

議長 それでは全員協議会を開会をいたします。

本日はご承知のとおり、新型コロナウイルスに対応した3密を避けるように、机の配置をしております。ご理解をしていただきたいと思います。

挨拶は省略をさせていただきます。

ご連絡をいたします。会議は公開しており傍聴可能でございます。また、会議の映像は庁舎内のテレビに放映をしております。会議内での発言は必ずマイクを使用してください。質疑答弁の際は、時間の関係もございまして簡潔にお願いをいたします。携帯電話をお持ちの方ご配慮をお願いをいたします。

ただいまの出席議員は15名であります。欠席議員は、小池正夫議員、武藤博光議員の2名であります。定足数に達しておりますので、これより全員協議会を開会をいたします。

職務のため、議会事務局より事務局職員が出席をしております。

それではこれより議事に入ります。

那珂市議会 I C T 導入について、I C T 導入検討会、木野議員より説明を願います。

木野議員 前回 10 月 14 日の全員協議会で、ペーパーレス文書管理システムのデモンストレーションを実施しました。議員の皆様からいろいろなご意見をいただきました。ICT 導入検討会では、皆さんからいただきました意見をもとに本日の全員協議会において、ICT 化について那珂市議会としてどのようなことをしていきたいのかを改めて議員の皆様にご説明させていただきたいと思っております。また、10 月 20 日に ICT 導入検討会で別会社の文書管理ソフトのオンラインセミナーに参加し、先日見ていただいた文書管理ソフトとの比較を検証いたしました。本日はそのときの資料を取り寄せましたので、その内容を説明し、皆様のご意見をいただきながら、文書管理ソフト以外のソフトも含めて選定をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議長 続きまして、事務局から補足説明がございます。

次長補佐 それでは、ICT 化に向けた取組について、こちらでご説明をしたいと思います。すみません着座で失礼いたします。

2 ページをお開きください。基本的なところからスタートしていきたいと思っております。なぜ ICT 化すべきなのかということがございます。新型コロナウイルス感染症はヨーロッパではロックダウンを行う国があるなど世界各地に猛威を振るっている。このような中、感染防止対策などによりテレワークが急速に普及し、会議もオンラインで行う企業が増えてきております。さらに、令和 2 年 9 月に発足した、菅内閣では新たにデジタル庁が設置され、また紙から電子化への移行が各省庁、各自治体で進んでおります。議会におきましても、議案書やそれに関連する資料など、毎年かなりの枚数となっており、議員、執行部それぞれに大きな負担となっております。また、過去の資料が山積みとなれば見返すのにかなりの時間と労力が必要となっております。那珂市議会としても、このような状況に対応し、議員と執行部の業務の効率化を図るためデジタル化を進めたいと考えております。効率化は働き方の改革にもつながるということがございます。

3 ページでございます。まず訂正がございます。下から 2 つ目、アプリ LINE を使用している議員のところですが、17 名議員のうち 12 名でございます。13 名から 12 名への訂正をお願いいたします。こちらは令和 2 年 7 月に実施しました議員へのアンケートの結果でございます。スマホを持っている方は全員でございます。パソコンを持っている議員は 15 議員。タブレットを持っている議員は 8 議員。家庭に Wi-Fi 環境がある議員は 16 議員。アプリ LINE を使用している議員は 12 議員。テレビ会議を実施したことがある議員は 6 議員おりました。

次のページをお開きください。4 ページ、5 ページの説明になります。まず 5 ページ、那珂市議会で進めていくこと、大きく分けてこの 4 つになります。議会中継、テレビ会議、ペーパーレス化、連絡ツールでございます。上がその説明になります。ICT 化の目的として、大前提は議会運営の効率化ということがございます。まず 1 つ目でございます。市民に会議をライブ配信、議会の見える化ということがございます。本会議など

をスマホやパソコンで傍聴できるようにする環境をつくるということでございます。2つ目、ペーパーレス化、こちらは、紙やインク代、印刷の手間、人件費などを削減することを目的としております。会議資料などの検索・閲覧など効率的に活用するような目的をしております。続きまして3つ目、迅速な連絡網の整備、こちらは会議の開催や報告事項などをスマホ、タブレットに配信をしまして災害時など、安否確認や情報の共有をするものでございます。4つ目、非常時に会議ができる体制の構築、テレビ会議により自宅から委員会や会議に出席できる体制を構築する。下の2つに関しては危機管理体制の一つと考えております。

続きまして、6ページをお開きください。ここからは、各項目に沿った内容の説明をさせていただきたいと思っております。まず一つ、Y o u T u b eを使った議会中継の配信、こちらはY o u T u b eでの配信によりまして、現在W e b上やケーブルテレビにおいて議会の生中継を導入する自治体が増えてきているため、議会としても今年度のシステム改修を行っており、その中でY o u T u b eで配信する環境を構築するものでございます。こちらの導入のメリットとしましては、市民などが自宅から議会の傍聴することができるようになるため、3密を回避し、傍聴者を減らすことができます。また、生中継されることにより議会の身近に感じていただき、議会に関心を持ってもらえる効果が期待されると予想されております。ただし、導入の検討課題ということでございますけれども、こちらは生中継を本議会のみ配信するのか、それとも常任委員会を含めるのかは、今後の検討課題でございます。こちら今現在ではホームページで本会議のみ見ることができるようになっておりますので、こちらの常任委員会のほうに関しましては、今後検討ということでございます。

続きまして7ページでございます。テレビ会議システムの導入でございます。テレビ会議の前提ですけれども、こちらはインターネットをとおして遠隔地と双方向の映像音声による会議が実施できるシステムでございます。導入のメリットとしましては、災害や新型コロナウイルス感染症拡大により、庁舎に来られない状況でも委員会や会議を行うことができるということでございます。極端な話ですけれども例えばインフルエンザとか、新型コロナウイルスに感染した方がいても、もしその方が会議に出席できれば、こちらで定足数確保することが可能なのかもしれないかもしれません。こういったことも含んでおります。3つ目でございます。那珂市議会での活用でございます。こちらとしては、月1回程度、こちらは慣れていただくための連絡会議ということ想定しております。また常任委員会や全員協議会に関しては非常時ということでの対応でございます。あと、こちらも使えればという形になると思うんですけど、一般質問に関する議員と執行部の打合せにも活用できるのではないかとということでございます。

8ページをお開きください。ペーパーレス会議システムの導入でございます。こちらの導入のメリットとしましては、資料の印刷費用、先ほど申しましたとおり、紙やカラ

ーインク、印刷時間、人件費の削減、これが導入の最大の目的でございます。また、過去の資料の検索・閲覧などを行うことが可能となります。議会、委員会で説明者が資料を一括操作することによるスムーズな会議進行、こちらもできるという流れになっております。デメリットとしましては、一度に複数の資料が表示できないということがございますし、会議中のメモが取りづらい、これも画面の書き込みが可能になるんですが、慣れが必要になってくると思います。あとは、こういうシステムにちょっと慣れない方への利便性の対応で、導入まで何回も練習をしなければならないということがございます。

続きましては9ページでございます。ペーパーレス会議システムの製品比較でございます。前回、moreNOTEのほうのデモンストレーションをご覧いただいたかと思っておりますけども、今回、議会のペーパーレス会議システムとしましては、moreNOTEで、これからご紹介しますSideBooks、こちらの2つが全国の議会で採用されているものでございます。まずSideBooksのほうのちょっと説明をしたいと思っております。ペーパーレス会議システムSideBooksという資料をご覧ください。こちら、機能を書いた、4ページ、5ページをお開きいただきたいと思います。まず4ページのほうから説明させていただきます。まず強力な検索機能、こちらはファイルの検索、フォルダ内の検索というのでできるというのが強みでございます。前回のmoreNOTEでもファイル名の検索というのはできたということで説明はあったかと思うんですけども、SideBooksの強みは、このPDFの中の文字も検索する対象として検索することができるという点が、こちらは細かく検索できる機能を持っているということでございます。続きまして右側、見開きで表示・拡大ページ移動ということで、こちらは、ページを大きく表示した場合でも次のページに進む場合にそのまま同じ大きさで次のページを見ることができる、または端末を横にすると、見開きで2枚両方見ることができる、そういった利点がございます。続きまして、今度左下になります。多彩なメモ機能、その右側にあります、しおりセット、こちらは大体イメージはこの前のmoreNOTEと一緒にございますので、こちらは割愛させていただきたいと思います。

5ページでございます。右上です。ページ通知機能、発言者が会議出席者に対して閲覧してほしいページを指定して通知します。出席者が閲覧を選択すると指定したページが表示され、とても便利な機能でございます。また、出席者の通知の履歴を追いかけることができまして利用者は自分のペースで読み進めることができるということがございます。右側でございます画面の分割でございます。画面分割対応の端末であれば、SideBooksブラウザで機能を開くということで、1つの画面に2つの文書、横並びで閲覧することができるということでございます。これはiPadというこれからちょっと説明しますがその機械を使うことによってこの画面分割が可能だということでご

ざいます。

次左下になります。フォルダの無限階層による構造化というのがございます。こちらはちょっと説明しても難しいので、先ほどの資料の 10 ページをお開きいただきたいと思います。こちらに議会として使用するイメージみたいなものをつくってみました。こちらは大体議会として必要なものというのは大きく分けて3つかなと、今のところ考えられる想定でございます。まず1つ目の、議会事務局からのお知らせというボックスをつくりまして、こちらで常任委員会の開催通知ですとか、今行っております新型コロナウイルス対策の会議の情報提供などについての通知をこちらに入れて、各議員がタブレットから見ていただくというような考えでおります。2つ目、令和2年第4回定例会と書いてありますが、これは今回開催される定例会だけを出しにして、その中の議案書であるとか常任委員会の資料みたいなものを分けをして、1つのくくりとして見やすくしていきたいと考えております。3つ目の下の過去の議会資料は、こちらはこれから導入してからどんどん過去の会議資料という形で積み上げていきたいと思っておりますので、こちらは何年第何回定例会または常任委員会という形でいくと調べるように考えていきたいと思っております。

また青い資料に戻りまして、5ページの左下となります。マルチデバイス対応ということで、こちらはSideBooksの場合、1つのIDを取ることによって複数の機械から同じプログラムで呼び出すことができるということで、パソコンであったりタブレットであったりスマートフォンであったり、そういうところから自分のIDで自分のデータを引っ張り出してくることができるということでございます。

資料戻りまして、資料の9ページをご覧ください。先ほどの製品比較になりますけども、moreNOTEのほうは、この前の研修で行いましたカレンダーを使った文書管理というものがメインでございます。あとは、個人フォルダの件がご質問あったかと思うんですけども、こちら管理機能で作成は可能ということで業者から回答いただいております。ただ、こちらはカスタマイズという形になりますので、標準ではなかったということでございました。価格に関しては、初期費用で72万3,000円、年間で63万3,600円かかるということで、県内で採用している自治体は、笠間市、守谷市でございます。どちらかといえばmoreNOTEのほうは、一般企業向けのシェアがナンバーワンということだったので、こちらのほうを紹介させていただいたという経緯でございます。また、価格のほうは、これから説明するSideBooksよりも安かったということで、moreNOTEを説明した次第でございます。続きましてSideBooksのほうなんですけども、今説明した内容にプラスして本棚をイメージした文書管理ということで、また先ほどの青い資料の5ページ。右上に画面分割という説明があったところの下画面にフォルダみたいなイメージがあるかと思うんですけど、これが一応選んでいくための基本的な場所っていうか、そのものっていうか、この上に、実は本棚みた

いなものがあるんですけども、ホーム画面、その本棚を開くと、こういうふうにはフォルダが枝分かれするような感じで、今局長が持ってるんですけども、こちらは本棚がイメージ、さっきmoreNOTEはカレンダーだったんですけども、SideBooksに関しては本棚を開くと、こういう細かい項目が開いていくというようなイメージでございます。こちらに関しましては、個人メモとかそういうのは他人から見られない。これは、一人一人にIDが付与されるからということでございます。また、個人のパソコンに、これ全部PDFですけども保存することは可能だということでございます。価格のほうは初期費用はmoreNOTEより27万1,000円と安いんですけども、年間費用が99万円かかるということでございます。ただ、こちらに関しましては、県議会、取手市、神栖市、東海村、あと白い資料でSideBooks自治体一覧表というのがあるんですけども、こちらの全部で251自治体が今、260自治体を超えてるということなんですけども、一番最後のページをご覧いただきたいんですけども、233番に茨城県が241番に東海村がこちら入っております。東海村では、既に9月の議会で一度、こちらのほうは使い始まっているということでございます。すみません、また資料のほうに戻りまして、11ページお開きを願います。こういったシステムの導入した自治体の反応ということでございます。毎年200万円以上かかっていた紙コストが削減できた。また、議会資料の削減、資料の保管のスペースが不要になったということでございます。こちら具体的な市町村が載ってなかったの、ほかの自治体を確認しました。笠間市の例になりますけども、笠間市は1年間で14万枚の削減、金額にして120万円のコストダウンということになったということでございます。120万円の内訳の中で一番占めたのが人件費が約80万円あったのが削減できたというのが大きかったみたいでございます。続きまして議案の訂正の対応でございます。今までは、紙での差し替えということで何回か執行部のほうで差し替えのほうやってたかと思うんですけど今度はファイルを更新することによりまして、紙の差し替えをなくしまして、あとはその差し替えた内容っていうのは、先ほど言った事務局からのお知らせみたいところで、ここが直りましたっていうのを議員にお知らせしていけばペーパーレス化につながるのではないかと思います。あと3つ目、タブレット導入で資料が見やすくなるということで慣れてくれば、字を拡大して見ることができたりとかする機能がございます。例えば、執行部から添付されたグラフですとか、そういったものを大きく表示をして確認することもできますし、またカラーということでございますので、写真とか白黒じゃなくてリアルにそういうのを見ていただくということも可能になるかと思えます。

12ページをお開きください。続きまして連絡ツールの導入でございます。連絡ツールとは、グループ、議員間のコミュニケーションを円滑にするシステムでございます。導入のメリットとしましては、手軽にできる、電子メールのような宛名書きや定型的な挨拶が不要でございます。コミュニケーション手段が豊富ということで、音声通話やビデ

オ通話の機能もついております。あとは情報が共有できるということで例えば、会議の出欠確認などが皆さんの各グループ内での共有ができるということで、もう一点、誤送信が心配ないということで送信後に字句とかそういうのが間違っていたら修正する機能があるということでございます。那珂市議会での活用としましては、委員会などの開催や執行部からの情報提供を素早く議員に通知することを考えております。例えば、夜間においてもそういう通知があった場合には素早く第一報ということでこの連絡ツールでお知らせすることがこれからは可能になるかと思えます。また、災害時の安否確認もこちらの連絡ツールで行いまして各議員の把握してる情報の共有なども、こちらですることができるかと思えます。これもすみません、飛んでしまうんですけど、例えば 14 ページ、15 ページ。こちらで連絡ツールの使用例というものを載せました。まず 14 ページでございます。「11 月 15 日 15 時より全員協議会室で I C T 導入検討会を開催します。詳しいお知らせは文書管理ソフトをご覧ください。」という形で、まずお知らせは、この連絡ツールのほうを使いまして、詳しい内容は文書管理ソフトのほうにその文書を入れるようなイメージを考えております。それに対しまして、「了解しました。」とか「出席します。」とか、「この日は欠席します。」そういったものを書き込むことによって皆さんの出欠状況を確認することが可能かと思えます。続きまして 15 ページの災害時などの例でございます。例えば事務局から台風による安否確認を行いますと、皆様の状況を報告してくださいということで、A 議員は「大丈夫です。」、B 議員は「〇〇避難所に避難しています。」、C 議員は「市外の親族の家に避難しています。」、あとは D 議員が「無事です。那珂川の状況を見てきたので写真を送ります。」と言って現地を見てきたものをここに貼りつけていただければ、皆さんでその写真を共有することができる。そういう機能として、連絡ツールが使っていったほうがいいかなというふうに考えております。13 ページに戻っていただきまして、こちらの製品比較でございますけども、連絡ツールとして代表的なものは、L I N E W O R K S、C h a t w o r k、S l a c k という 3 つの連絡ツールが、主にメジャーに使われているものでございます。この中で圧倒的に使われているのは C h a t w o r k というものなんですけども、こちらは営業ツールが主なものになりますので、どちらかといえば議会には不向きかなというふうに考えております。S l a c k に関しては拡張機能が充実しておりますがやっぱり月額のコストがちょっと割高ということでございまして、できれば L I N E W O R K S が一番皆さん L I N E 使われてる方もおりますので、こちらが使い方としては一番入り込みやすいかなというふうに考えております。やはりここの強みというのは、未読・既読という機能がありますので、誰が見ている見えていないかっていうのも即座に確認することができますし、また、カレンダーやアンケート機能もございますので、こちら慣れてくれば、いろいろな対応、範囲を広げていくことができるのかなというふうに考えております。

飛びまして 16 ページでございます。セキュリティに関してでございます。こちらテレ

ビ会議システム、こちらはZ o o mを予定しておりますが、こちらは前回の会議のときに質問がありました、アプリの脆弱性の問題があったかと思うんですけども、こちらのほうは4月の時点では確かに延べ全世界で3億人が使っていて、そういうプライバシーでの面が指摘されておりましたけども、今はバージョンアップによりまして強固な暗号通信が行われるようになり解消されたということでございます。ただし、こちら会議パスワードといいまして会議室に入るためのパスワードを例えば掲示板とか第三者に知らせてしまうと、その方が入ってきてしまったりとか、そこから情報が漏れてしまったりとか、そういうちょっと人為的なものがありますので、そこは注意が必要になるかと思えます。ペーパーレス会議システムでございますけども、こちらは文書ファイルの暗号化を行っており、4段階で強固なセキュリティを持っているということでございます。連絡ツールにおきましても、こちら皆さん使われているので、高度なセキュリティを搭載しておりますし、24時間365日システムの保守、ウイルスの対策をしているということでございます。

続きまして17ページでございます。機器の選定でございます。こちらのキーボード操作が苦手というのがほかの議会でのアンケートでの課題というか問題があったものですから、タブレットPCを導入しようという考えで、まずパソコンという概念がここで外れた形になります。導入端末としましては、先ほどの自治体一覧表、S i d e B o o k sにもあるんですけども、こちらの採用している、機械通信方式がほぼi P a d P r oという12.9インチのものになります。こちら特徴といいますのは、画面サイズがA4のサイズで出てくる形になりますので、資料がまず等倍、同じ大きさで見れるということが強みでございます。持ち運びができるタブレットの中では一番上限のサイズということでございます。また、セキュリティの管理が事務局のパソコンでできるという強みもでございます。m o r e N O T Eの研修会でマイクロソフトのS u r f a c eを体験した方が何人かおられるかと思うんですけど、こちらちょっとやはり入り方が複雑だったというのがございましたので、できれば本当に簡単な操作のみで進めていきたいなということで使いやすさにこだわりたいというふうに考えて、i P a dを考えております。ただ、課題としましては今i P a dの在庫がないという状況でございます。G I G Aスクールだったり、テレワークだったりということでいろいろ需要があるということで、この供給に関しては確実に入るといのがちょっと今確約できない状況だということでございます。

18ページでございます。ICT化のスケジュールでございます。インターネット配信でございますが、こちらは議場の整備、先行して進むことによりまして、3月にはテスト配信が可能ではないかというふうに予定しております。6月、9月、12月では、本格的に本会議のほうをインターネット配信していきたいと思えます。常任委員会は、とりあえずは市役所の中だけ配信できるように考えております。タブレットに関しましては、

調達の時期がやはり3月は厳しいということで6月からということになります。ただ、すぐタブレットに全部切り替えるわけではなく紙と並行して、6月、9月議会は2つ並行して進めていきたいということで、12月、1年後にタブレットのみでの使用を考えております。議案書などの資料も同じ流れで12月にはなるべく紙をなくす方向で考えております。

19 ページになります。導入からのサポートでございます。順調にタブレットが入ってくれば3月、4月に導入するソフトの研修会を行う予定でございます。連絡ツールに関しては議会事務局のほうで対応する予定でございます。4月、5月に議会事務局が定期的に操作研修会を実施する予定でございます。こちら、慣れていただくための研修会を随時やっていきたいというふうに考えております。模擬テレビ会議ですとか、文書管理ソフト、連絡ツールの操作研修、こちらのほうでやりたいと思っております。6月の開会7日目の議案説明終了後に、もし可能であれば、議会模擬委員会を実施して実際どのような動きになるかっていうのを体験していただければというふうに考えております。その後も、議会事務局またはサポートいただく業者のほうで対応していきたいと考えております。

20 ページをお開きください。続きましてタブレットと他の端末の連携でございます。テレビ会議を行う場合、テレビ会議用の画面と資料を見る画面、どうしてもやはり2つ、端末を使った会議のほうが今一般的とされております。そのため、今回、タブレットを貸与するんですけども、もう1台はご自宅、ご自身でお持ちのパソコン、またはスマホをご用意、ご利用いただくような形になってしまうかと思っております。例えば下の丸の2つになるんですけども、例えば、パソコンをお持ちの方は、タブレットをテレビ会議で使ってくださいまして、パソコンを資料閲覧に使っていただければと。スマホとタブレットの場合はスマホがテレビ会議用になりまして、タブレットのほうで資料を見ていただくというようなイメージを考えております。

21 ページ、こちらは目標でございますけども導入年度として議会としての目標といたしますか、進めていきたい内容ということで、まず議会の生中継。あとはテレビ会議を行う。タブレットを使った委員会を行う。連絡ツールで通知する。これが導入年度の目標でございます。

最後に22 ページでございます。今後、那珂市議会としてどのように進めていくかということでございます。同じ説明になってしまうと思うんですけど、紙で通知しなければならぬものを除いて開催通知などは連絡ツール、開催内容については文書管理ソフトにおいて通知をしていきたいと思っております。文書管理ソフトの機能が、当面、一番簡単なもの、そちらで進めていきたいと思っております。そのあと、皆さん慣れてきた段階で、次の段階、新たな機能を、また研修なりで取り入れていきたいというふうに考えております。あとテレビ会議がスムーズに行えるような連絡会議、こちらにも慣れていただ

くため、いざ何かあったときの非常時のために、連絡会議などを行って定期的に使えるような環境をつくっていきたいと考えております。

最後になります。今回の導入を予定しているソフトですが、こちらの使い方は、随時検証しまして、もし新しいソフトが出てきたりですとか、今のソフトがちょっと使いつらいというような意見が出てきた場合は、その辺のソフトの入替えなど定期的に検討していかなければならないかというふうに考えております。

以上になります。

事務局長 ただいまご説明したように 12 月補正で予算も確保はしております。これは前回の全員協議会のほうでもお示しをしたところでございますけれども、本日は、導入する会議システム、Side BooksにするのかmoreNOTEにするのかっていうので、事務局としては、前回のmoreNOTEでもやりまして、Side Booksのほうのデモのほうをオンライン会議で見させていただきました。使い勝手がいいのは、どちらかというとやっぱりSide Booksのほうなので、ランニングコストは多少高くなるんですけども、やっぱり使ってもらおうということを前提に考えますと、Side Booksのほうが皆さんに使ってもらうには使いやすいものである。ほかの自治体の議会でもたくさん使ってる実績がございますので、そちらでどうかということと、あとタブレットのほうにつきましても、iPad Proっていうことで、画面が非常に一番大きいタブレットになります。12.9 インチっていうのはほかにはこれ以上のものはないし、この大きさを扱っているのがiPadしかないということでございます。そのほかのタブレットも12インチとかの製品も検討はしたところでございますが、これはiPadではなくてWindows版のタブレットのSurfaceが12インチがございまして、そちらはちょっと、Windows版のタブレットっていうと初心者とか分からない人にとってはなかなか使いにくいのではないかとございまして、導入する機材としてはiPad Proの12.9インチということで考えております。

それから、連絡ツールとしてはLINEWORKSということで皆さんLINEを使ってる方が多いので、そのLINEと同じような使い方、いろいろなカレンダー機能とか、その業務用のLINEということでLINEWORKSっていうのございますので、そちらを導入して利用していきたい。

あとは、テレビ会議システムとしてはZoomのライセンスを購入しまして皆さんで使っていきたいというふうに考えております。

その予算措置を12月の補正予算で計上してありますので、それについてご理解、ご了承を本日お願いしたいなということで、また改めて今回全協を開催したところでございますのでよろしくお願いしたいと思います。

以上でございます。

議長 説明が終わりました。何か確認したいことありますか。

古川議員 まず執行部との関連はこちらが変更しても大丈夫なんですか。まず一点。

事務局長 基本は同じ会議システムを導入しないと効率的に運用ができないものですから、基本的にうちのほうでS i d e B o o k sを使うということになれば、執行部も含めて全部一緒に導入する予定でございます。

古川議員 調整はこれから。

事務局長 基本的にうちと同じシステムを入れないと、その会議でも資料でも連携ができないので同じシステムを、ここでS i d e B o o k sっていうことでご了承いただければ執行部のほうもS i d e B o o k sで導入する予定です。

古川議員 12月補正ということなんですが、具体的な今、維持費と初期費用はお示しいただきましたけど、それ以外の細かい予算ありますよね、多分ね。その辺については、補正予算で確認してくれということですか。

事務局長 前回ちょっとお配りしたんで今回配ってないんですけども、前回の10月14日の全協でお配りした内容の補正予算になっております。予算の主な内容はタブレットの購入代が大体500万円近くになるんです。22台導入しますんで、いろいろなタブレットとキーボードであるとかタッチペンであるとか、そういうのを入れますと、定価ベースは20万円近くになってしまうので、それが大体500万円。それから、この中にネット環境を構築するのに光回線を引いてきて、この全員協議会室であるとか議場であるとか、事務室であるとか、そこでW i - F iが使える環境にします。その工事が大体200万円程度かかりますんで、あとはそのソフトの導入費用が100万円程度ありますので、合わせて大体750万円程度の補正予算を要求しております。

古川議員 分かりました。内容は多少違うけれども総額でいけるといことなんですね。それと最後にもう一つ、前回お示しいただいた、例えばテレビ会議でも何でも自宅でのW i - F i環境を利用したものには変わりないんですね。変更ないんですね。

事務局長 基本的にタブレットで今考えているのが、W i - F iで使えるタブレットなので、ドコモであるとかソフトバンクであるとかそういうところのセルラーモデルといった通信がついているものはちょっと想定してませんので、あくまでもW i - F iがあるところで使っていただけるっていうことを前提としています。

古川議員 分かりました。

花島議員 執行部も同じっていう話で、前回の会議のときにちょっと私その辺勘違いしたのは、要するに、議会対応の執行部分だけって意味ですか。つまり市役所のほかの職員の方々の何かツールとかそんなものはまるきり考えてない。そうすると執行部用に何台ぐらい導入する感じなんですか。

事務局長 執行部で今考えてるのが25台程度です。会議用に使うときに、皆さんと一緒に見られる台数ということで、全体で50ライセンスで、ランニングコストが大体99万円ということですね。

花島議員 そうすると何かねえ、ちょっと効率的にどうなのかなと思っちゃうんですけどね。

ふだんの仕事のシステムと 25 台とのつなぎで誰が持つかとか、各課 1 台くらいしかないですよ。25 台って言ったら、それでほんとに効率よくできるのかってところがちょっと疑問なんですけど、その辺の検討状況はどうなっているんでしょうか。

事務局長 まずは効率的に会議運営をするために一応このシステムを導入するというので、基本的には会議に使うときに執行部のほうはタブレットを出席者に渡すっていう、何かあれば事前に、例えば定例会があるとすれば、定例会の議案配付の時期に部長なりに関係者に渡して、それで議案を見てもらうような形の運用ということで、常時その本人に固定し頂けているっていう使い方ではないっていうふうに今のところ聞いてます。そもそもはペーパーレス化を推進して、議案書なら議案書で今までこんなにたまってるのは全部そこに入れる、入れてそれで確認しようということですので、ペーパーレス化とあとは執行部も印刷する手間であるとか、コピーする手間であるとか、そういう部分も省略できるということで、効果は多少はその部分はあると考えてます。

花島議員 今どうこうって話じゃないですけどね、やっぱりそれだと例えば 1 課に 1 台入らないですよ。25 台って。だから、それで本当に効率よく運用できるのかがかなり疑問なんです。定例会のときっていうのはどの課も関係ありますよね。だからひょっとして倍ぐらい必要なんじゃないかなって気がするんだよね。本当に真面目に考えたら、あるいは現状の仕事で使ってる IT 機器と円滑につながるっていう、きっちりとした道筋があれば台数がもっと少なくていいかもしれないっていう話なんですけど。その辺、ぜひ考えていただきたいと思います。何を入れるにしてもね。

以上です。

原田議員 検索する時も Wi-Fi 環境がないとできないってことなんですか。フォルダとか、通常パソコンだとネット環境なくても文書とか開けるんですけど、このソフトの場合は Wi-Fi 環境がないとできないっていうことでよろしいんでしょうか。

事務局長 基本的に文書とかクラウド上にデータが保存してあるので、やっぱりネット環境がないと、そこで文書を引き出したりなんかっていうのが基本的に難しいと思います。それで後からいろいろちょっと細かいことをご説明しようと思ったんですけども、できれば本当はパソコン、タブレットが常時ネットワークにつながっているのが一番いいんですけども、それはちょっと今検討中な部分がございます、皆さんご存じかどうか分かりませんが、テザリングっていう形でスマホとタブレットを接続して使いたいときは、それで使っていただければどこでも、それはデータが見られるっていう形にはなりますので、その部分はちょっと今、検討協議中です。

笹島議員 あれ、今の Wi-Fi の件なんだけど、家にないのね。飛んでないんだよ電波がね。どうすりゃいいのこれ。

事務局長 アンケートを取ったときに家庭用に Wi-Fi があるってチェック入っていたと思

うんですけど。

笹島議員 事務所にあるんだけど家にはないんですよ。

事務局長 できれば引いていただけるようお願いはしたいんですけども、もしない場合は、その間は持ち運びのモバイルのルーターを2台ぐらいこちらで買いますので、それを接続して使っていただく。自宅では当分の間は使っていただけるようにちょっとお願いはしたいです。

笹島議員 パソコンと同じようになっちゃうね。こういう感じでね電波飛ばしてどこでも使えるようなあれじゃないんだ。どこでも使えるような電波飛ばしてんじゃないですか。今言ったWi-Fi機能がないと使えないんじゃないんですか。どこでも使えないよね、それ不便じゃない。

事務局長 基本はそのWi-Fiの対応で考えてます。あとはタブレットを購入するときに、セルラーモデルといって通信会社のSIMカードを入れると通知が可能になるようなモデルも今検討してるところなので。

笹島議員 そうしたら場所限られたところばかりじゃない。そうしたら、見たいところで見られないという、あんまり持ち運びするなっていうんでしょうけど。

事務局長 持ち運びはして使っていただきたいというのが前提です。

花島議員 私のiPadはそのセルラーモデルなんですよ。だから電話機能あるんですよ。電話じゃないな。電話はないんですけど、通信機能は電話並みにあるんですけど、プラス幾らかになるんですが、それでやるとその導入コストと維持コスト、どのぐらい違うのか、今検討するとおっしゃったから検討するということですね。検討してみてください。

それと検索なんですけど、クラウドにあると言っても、ある分は例えば自分のタブレットに持つことはできますよ。だから、例えば今言ったセルラー機能なしで入れたとしても、例えばどっかへ出張に行くときに、議案の検討を空いた時間にやりたいと思って持っていくときに、特定の議案をこれはもう自分のところに落として行って持っていけばいいんですよ。分かりました。

笹島議員 どこでも使えるようなスマートフォンみたいなふうでやってほしいっていうんですけど、それちょっと聞いてくださいよ。

事務局長 その辺についてはちょっと今検討中でございます。通信ができるものも使っているところが多いんですけども、そうすると、ランニングコストとして、1台1か月3,000円、4,000円程度かかってしまいますので、そうすると年間100万円ぐらい通信費が全体で発生しますということもありますので、その辺ちょっと今検討しているところでございます。

笹島議員 そうじゃないと不便で使えなくなっちゃうんで、結局、かばんの中に眠らせちゃったりしちゃうから。将来的にいつでもどこでも見て使えるように、それをお願いしますよ。

議長 どうですか、その辺については、

事務局長 その辺検討させてください。十分検討いたします。

笹島議員 検討してください。

議長 検討するそうですから、それでご理解をしていただきたいと思います。

以上、そのように決定をさせていただきます。

続いて、事務局から事務連絡があります。

事務局長 お手元にコロナ禍での議会運営に関するアンケートを資料の一番下に置いておいたんですけども、前回9月の定例会の一般質問のとき、新型コロナウイルス対策ということで、3分の1程度の議員が退席していただいて別の会議室でテレビ中継を見ていたということがございます。これについてのちょっと感想をお願いをいたします。今後もまたそれを続けるかどうかの参考にさせていただきたいと思いますので、今後も続けていいとか悪いとか、またそのほかにも何かこんなことをしたほうがいいのかということがあれば、この場でちょっとお書きいただいて、置いておいていただければと思いますのでどうぞよろしくをお願いいたします。

議長 以上で全ての議事が終了をいたしました。

これにて全員協議会を終了といたします。

閉会（午後4時44分）

令和3年2月22日

那珂市議会 議長 福田 耕四郎